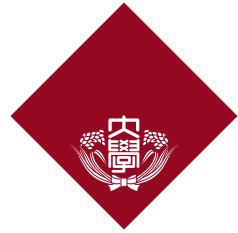


学校法人 早稲田大学

2018年度事業計画

2018年3月



Contents

Waseda Vision 150	3
早稲田大学	5
5つの柱	5
1.グローバルリーダーの育成	5
2.世界に貢献する研究	6
3.地域との連携強化	7
4.早稲田文化とスポーツの新たな展開	8
5.持続的発展を支える大学の仕組み構築	9
他の主な取り組み	10
1.教育改革事業	10
2.研究力強化事業	12
3.社会貢献および文化・スポーツ推進事業	13
4.進化する大学の仕組みの創設	14
学術院	15
附属校・芸術学校	16
1.早稲田大学高等学院	16
2.早稲田大学本庄高等学院	17
3.早稲田大学芸術学校	18

早稲田大学教旨

1 学問の独立

— 世界へ貢献する礎 —

2 学問の活用

— 世界へ貢献する道 —

3 模範国民の造就

— 世界へ貢献する人 —

To Our Stakeholders

グローバルユニバーシティをめざす 新たなステップへ。

2032年に迎える早稲田大学建学150周年の節目に向けて、
私たちは、あるべき大学の姿を追求してきました。

“Waseda Vision 150”の名のもとに2013年度から実行に着手したこの改革の取り組みは、5年を経過し、今年度より新たなステージに入ります。

「私たちが眞のグローバルユニバーシティとなり、広く地球社会に貢献するために、今年度、何をなすべきか。」こうした観点から、5つの重点項目を中心に本年度の事業計画をまとめました。

海外からの留学生の受け入れと海外留学への送り出しの増加、少人数・対話型の授業や体験型学習の拡充など、学びの環境は大きく進化しています。早稲田らしさの源泉であるダイバーシティの確保、研究・文化・スポーツ面でのさらなる飛躍、教育研究の発展を可能にするガバナンス体制の一層の強化にも取り組まなければなりません。

私学の経営環境がますます厳しくなる中で、“創立150周年の早稲田”のあるべき姿を実現するために、さらなる改革を続けてまいりますので、ぜひとも私たちの取り組みへのご理解を賜り、一層のご支援、ご協力をお願ひいたします。

早稲田大学総長 鎌田 重

WASEDA VISION 150

4つのVision

Vision 1

世界に貢献する
高い志を持った学生
教育・研究
人間力・洞察力を備えた
グローバルリーダーの育成

Vision 2

世界の平和と人類の幸福の
実現に貢献する研究
教育・研究
未来をイノベートする独創的研究の推進

スーパーグローバル大学創成支援「Waseda Ocean 構想」の10年間で、

数字で見る WASEDA VISION 150

◆ 学生数

	2007年度	2012年度	2016年度実績	2018年度目標	2032年度目標
学部生	45,066人	43,974人	41,512人	39,667人	35,000人

学部生2割減、大学院生6割増

◆ 受入留学生

	2007年度	2012年度	2017年度実績	2018年度目標	2032年度目標
5月1日時点	2,435人	4,331人	5,413人	7,396人	10,000人
2010年度		2012年度	2016年度実績	2018年度目標	2032年度目標
年度内通算	5,110人	5,490人	7,156人	9,396人	12,700人

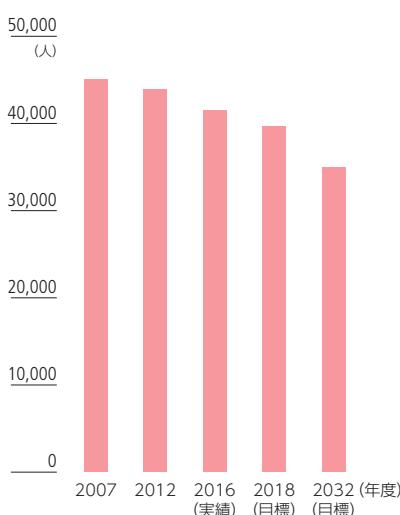
受入留学生10,000人の達成

◆ 派遣留学生

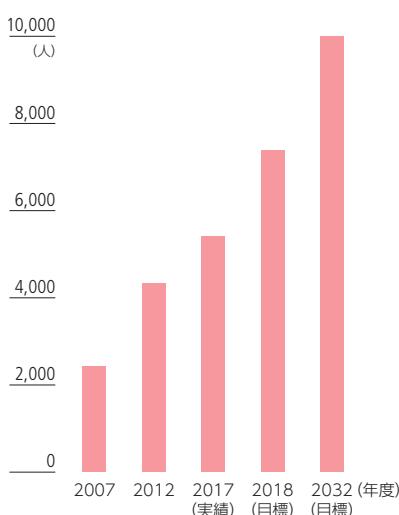
	2007年度	2012年度	2016年度実績	2018年度目標	2032年度目標
派遣留学生	1,456人	2,541人	4,086人	5,776人	10,000人

学生全員が海外留学

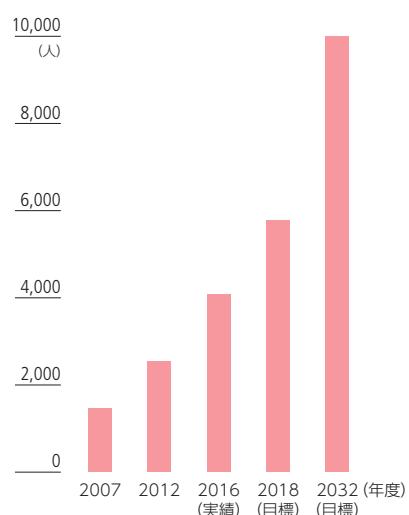
◆ 学部学生数



◆ 受入留学生



◆ 派遣留学生



Vision 3

グローバルリーダーとして
社会を支える卒業生
校友・地域との生涯にわたる連携の強化

教育・研究

Vision 4

アジアの大学のモデルとなる
進化する大学
進化する大学の仕組みの創設

大学経営

「WASEDA VISION 150」を加速し実現

◆ 外国語による授業割合

	2012年度	2016年度実績	2018年度目標	2032年度目標
学部	6%	10%	12.4%	50%
大学院	9%	17.6%	21.4%	50%

◆ 受入研究費

	2012年度	2016年度実績	2018年度目標	2032年度目標
受入研究費	96億円	103.8億円	125億円	200億円

研究事業の自立化

◆ 社会人教育

	2012年度	2016年度実績	2018年度目標	2032年度目標
社会人教育	34,944人	42,982人	44,150人	80,000人

ノンディグリード教育の充実

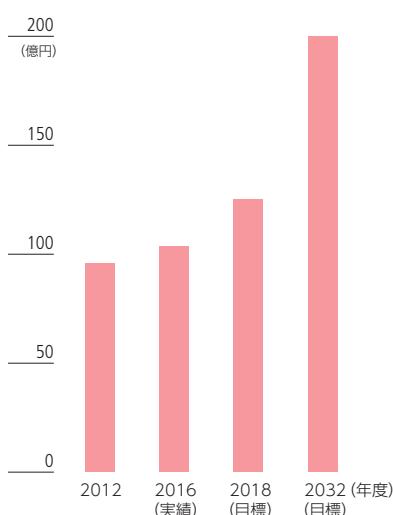
◆ 寄付金

	2012年度	2016年度実績	2018年度目標	2032年度目標
寄付金	32億円	37.6億円	50億円	100億円

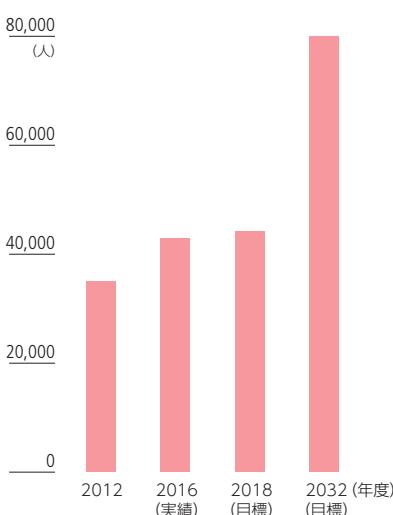
◆ 女性人数・割合

	2012年度	2016年度実績	2018年度目標	2032年度目標
女子学生(学部・大学院)	18,800人(35%)	18,286人(37%)	20,240人(42%)	25,000人(50%)
女性教員	226人(13%)	254人(14.9%)	300人(17.2%)	600人(30%)
女性職員	32%	37.3%	38%	50%

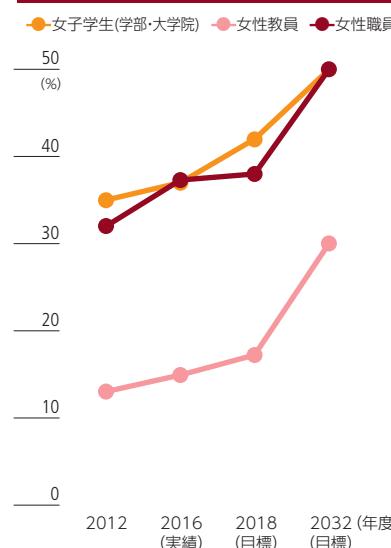
◆ 受入研究費



◆ 社会人教育



◆ 女性人数・割合



1. グローバルリーダーの育成

多様な個性が世界に羽ばたく

本学は、2017年12月時点で、91の国・地域、795の大学等と協定を締結し、高度な国際的学術交流を進めています。

世界と密接に繋がる早稲田の地に、国外国内のあらゆる国・地域から、多様な文化的背景とさまざまな価値観を持った人材を迎える、グローバルな視点を持ち「叡智」「志」「実行力」を兼ね備えたリーダーとして、世界各国・日本本土に送り出すこと。これが早稲田のめざすところであり、改革構想の初めは教育にあります。

◆「世界から早稲田へ」の環境整備

特定の国を対象とした特別奨学金AO入試の導入や英語学位プログラムの拡大によって、世界中から学生を招き入れる体制の整備を進めてきました。

2018年度はこれをさらに推進し、新たな英語学位プログラムとして、基幹・創造・先進の理工3学部における国際コースの拡充、社会科学部「ソーシャルイノベーションプログラム(TAISI)」の開講、大学院法学研究科「現代アジア・リージョン法LL.M.コース(Waseda LL.M.)」の新設、大学院文学研究科「国際日本学コース(Global Japanese Literary and Cultural Studies, 略称Global-J)」の新設、大学院スポーツ科学研究科修士課程に「Health and Exercise Science」および「Sport Management」研究領域の設置を行います。

◆「日本から世界へ」の環境整備

グローバル人材には、外国語の修得のほか基礎的な学術的素養を身に着ける必要があります。2017年3月には新語学教室棟(29号館)が完成し、「Tutorial English」や「WASEDA式アカデミックリテラシー」の全学展開を進めていますが、引き続き基盤的教育のさらなる環境整備に努めます。

また、海外留学をめざす学生に向けて、留学前予約型奨学金の創設や奨学金給付対象の拡充にも積極的に取り組みます。

◆多様性の中でのリーダー育成

複雑で多様なグローバル化社会に送り出す人材に、リーダーとしての素養を身につけさせるため、「人間力・地力強化プログラム」の整備や「リーダーシップ教育プログラム」の設置を進めます。

また、社会人のリカレント教育の充実をめざし、日本橋キャンパスにおける「WASEDA NEO」の本格実施に入ります。「WASEDA NEO」は、次の時代を創るリーダーが真のイノベーションを起こすための「共創の場」を提供するという産学官協働の新しい試みです。



Tutorial English 授業風景



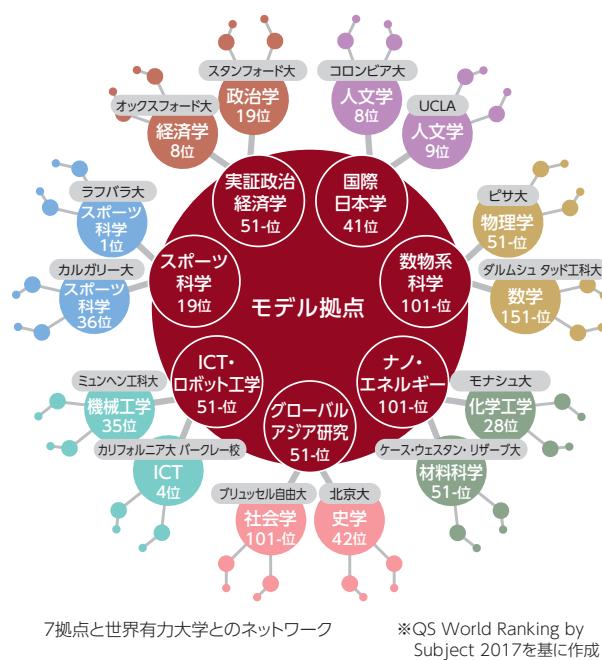
2017年3月に完成した新語学教室棟



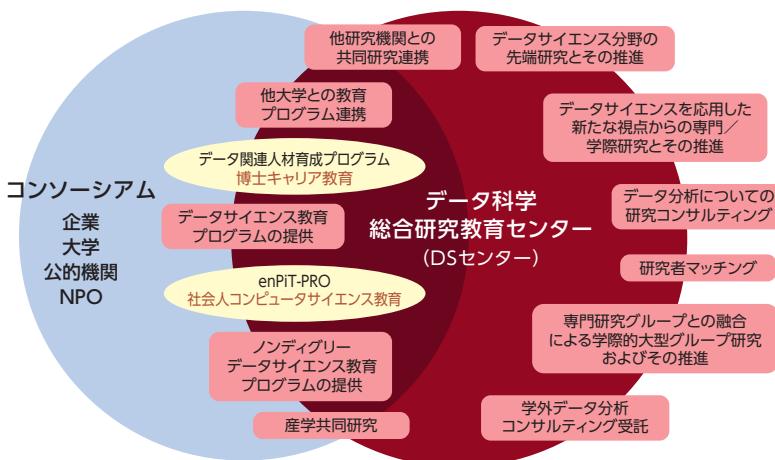
日本橋キャンパスにおけるWASEDA NEOの展開

2. 世界に貢献する研究

学際的視点で 地球規模の問題解決をめざす



新研究開発センター



データ科学総合研究教育センターの全体像と主機能

学問の枠組みを超えて、地球上の困難な問題の解決に寄与し、世界の発展に貢献する。そのような未来の実現に向けて進めてきた早稲田の取り組みは、文部科学省の研究大学強化促進事業として、最高評価Sを得ました。

2018年度は、さらなる研究環境の充実と国内外の研究機関との連携強化を進めます。

◆Waseda Vision 150を加速するWaseda Ocean構想

2014年度スーパーグローバル大学創成事業(Type A)として採択された「Waseda Ocean構想」は、世界の先導的な大学とつながり、世界中の優れた研究・教育者と学生たちが自由に往来する早稲田大学の構築をめざしています。モデル拠点として選定した7つの分野に引き続き集中投資を行い、それら拠点が主導する形で国際的な教育と研究を推進し、世界における本学のレピュテーションの向上を図ります。

◆新研究開発センターの建設

2032年の目標として掲げている外部資金獲得額200億円の実現に向けて、「新研究開発センター」の建設を行っています。これにより、人文科学、社会科学、理工科学の枠を超えた学際研究を推進するとともに、これまで以上に産業界との連携を図り、研究活動の自立(事業化)をめざします。

◆データ科学総合研究教育センターの活用

2017年度に設置した「データ科学総合研究センター」は、大規模データの解析や課題探索の拠点として、幅広い専門領域において研究のコンサルティングとサポートに積極的に取り組み、データサイエンスを活用できる研究者の育成と早稲田の研究水準の向上に貢献します。

また、文部科学省事業「データ関連人材育成プログラム」および「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT)」に採択された2つの活動とも連携し、学内にとどまらず産業界・他大学と広く協働しながら進めています。

3. 地域との連携強化

グローバルな視点で地域の活性化に寄与

地域の活性化や地方のまちづくり、文化の発展をグローバルな視点でリードする。これも早稲田が考えるグローバル・リーダーの在り方の一つです。

◆地域連携入試の推進

地方から早稲田に進み、卒業後日本各地で活躍する有為な人材を育成します。

2018年度は、新思考入試(地域連携型)の第一期生が入学し、所属学部の学びに加え「地域への貢献」をテーマとした新たな地域連携型プログラムに参加します。また、北九州地域の高校を対象とした、新思考入試(北九州地域連携型推薦入試)の第一期生も入学します。また、地方学生の経済的負担軽減のために、首都圏以外の国内高等学校出身者を対象とした入学前予約採用給付奨学金、「めざせ! 都の西北奨学金」を大幅に拡充します。

◆地域連携教育の推進

首都圏からの入学者や世界各地からの留学生が、地域連携の取り組みや地方でのインターンシップ体験を通じて地方で活躍できる道筋を確立します。また、日本各地で展開する地方創生型シンクタンクの役割を強化するとともに、各地の校友の力添えを背景にボランティアをはじめとした学生の活力によって、地方の産業活性化や雇用創出に貢献します。



岩手県田野畠村「思性の森」で育林活動・地域交流

[早稲田大学の地域連携一例]

早稲田大学による地域貢献の型

- A. 教育・研究拠点の設置:
北九州キャンパス、セミナーハウス、研究センターなど
- B. 大学間連携・産学官連携:
地方大学や地方自治体などとコンソーシアムを組み、地域で教育・研究を展開
- C. インターンシップ:
地方インターンシップ、ボランティアなどの体験型学習
- D. 地域振興計画・地域活性化事業への協力:
地域振興や地方の活性化に向けた計画の提案、共同事業の実施、起業家の育成など



4. 早稲田文化とスポーツの新たな展開

キャンパスのミュージアム化とアスリート支援を両輪に

2018年度も、文字通り文武両面から、早稲田らしさを追求する文化とスポーツの施策に取り組みます。

◆キャンパスのミュージアム化

学内に数多く有する優れた芸術作品や学術的に高い価値を持つ研究資料を、広く一般・地域社会にも開放します。

◆「早稲田大学歴史館」開館

2018年3月には、1号館1階に早稲田の“現在・過去・未来”をわかりやすく展示する「早稲田大学歴史館」をオープンします。

◆「早稲田アリーナ」竣工

2019年3月に竣工予定の多機能型スポーツアリーナ「早稲田アリーナ」。早稲田大学最大の地下空間を持ち、旧記念会堂を凌ぐ規模で、スポーツや記念式典での活用はもちろん、新たに学習支援施設「ラーニングコモンズ」や「スポーツミュージアム」も併設します。

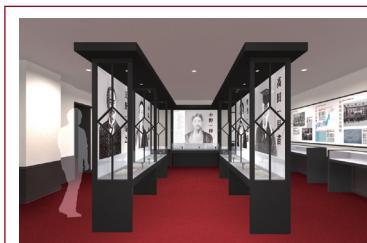
◆「東京オリンピック・パラリンピック支援

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、早稲田在籍・出身アスリートへの出場に向けた支援を強化します。また、早稲田アリーナの公式練習場としての活用、イタリアチームのトレーニング利用に向けた所沢キャンパス整備、東京都と連携したボランティア支援などの体制を整えます。

◆「早稲田アスリートプログラム」

学生アスリートが、学業とスポーツへの取り組みを両立するためのプログラム「早稲田アスリートプログラム」を、日本版NCAAにおけるアカデミックサポートのモデルケースとして浸透させていきます。

早稲田大学歴史館



大隈重信の事績をはじめ、草創期の功労者の紹介エリア



早稲田の今と未来を俯瞰できるエリア



早稲田アリーナ内「スポーツミュージアム」



早稲田アリーナ断面図

5. 持続的発展を支える大学の仕組み構築

サステナブルであるための ガバナンス体制づくり

国内・海外大学との競争が激しさを増す中で、本学が教育・研究を持続的に発展させるためには、総長のリーダーシップの下で、戦略的に大学をマネジメントできるガバナンス体制の構築が不可欠です。

これまで本学は、あるべきガバナンス体制の構築をめざして、学内外の評議員により構成された「ガバナンス諮問委員会」や、総長、副総長、常任理事による「ガバナンス検討委員会」における検討を通じて、ガバナンス体制の確立に努めてきました。本年度はこの動きを一層加速させ、早稲田を支える学内外のステークホルダーのご期待に応えてまいります。

◆総長選挙制度の抜本改正と総長選挙の実施

大学運営における学外意見の尊重・反映の必要性はますます高まっています。こうした視点から、本年実施される総長選挙において、20年ぶりに総長選挙制度を抜本改正し、決定選挙人の学外者比率を高めることや総長候補者の選出を立候補制とするなど、より公正で開かれた総長選挙をめざします。

◆法人運営のガバナンス体制の改革

機動的な意思決定および業務執行の効率化を推進し、大きく変化する時代の要請に的確に対応することは大学運営の要です。国公私立大学をはじめとする多くの組織体でのガバナンス改革の潮流を踏まえ、権限・ミッションの明確化、法人組織・会議体の改革、内部統制の充実に引き続き取り組んでいきます。

◆業務執行システムの整備

欧米の大学におけるグローバルスタンダードともいえる「SAP」を基盤とする財務システムを日本の大規模私立大学で初めて導入します。また最先端のITを活用し業務プロセスの自動化を行う、RPA(ロボティック プロセス オートメーション)を先駆的な取り組みとして展開します。こうした施策によって、単なる業務改善に留まらない、新しい時代の教育・研究の基盤を支える大学事務の革新をめざしていきます。

◆財務体質の強化と収支構造の改革

教育・研究環境の整備・向上のために、産学連携の推進、外部資金の積極的導入、収益事業の充実に引き続き取り組み、財務体質の強化を進めます。また2018年度は、資産運用の一部についてこれまでより積極的かつ長期的な運用をめざしている「Waseda Endowment(ワセダ・エンダウメント:資金の名称)」への投資を進め、将来へ向けたより強固な財政基盤の構築をめざします。



校友62万人の参画

大学との関わり

法人業務の
意思決定機関
監事

理事会
理事15~18人
(うち学外3~6人)

評議員会89~91人
重要事項の議決機関

学外評議員44人
評議員会推薦評議員22人
・商議員互選評議員22人
(11ブロック別選出)

商議員会1,000人
大学からの諮問審議・大学への建議
校友会選出商議員870人;評議員会推薦商議員130人
校友会正会員(約62万人)

学外評議員44人は、「評議員会」
や「総長選挙」を通じて、直接的に本学の運営に参画し、ともに様々な改革を実行していく。

商議員1,000人は、「総長選挙」
「学外評議員44人の選任」を通じ、直接的に本学の運営に参画する。

校友 620,000 人は、「商議員
1,000人の選任」に関わることで、
本学の運営に参画する。

総長選挙を通じた校友62万人の大学運営への参画

その他の主な取り組み

5つの柱として紹介した取り組みの他にも、本学では創立150周年となる2032年に向けた中長期計画 Waseda Vision 150を通じて、さまざまな取り組みを進めます。

1. 教育改革事業

(1) 入試制度の抜本的な改革

- 各種入試制度と在学中および卒業後の活躍に関する総合的な分析
- 多様で優秀な学生を選抜する新たな入試
- 地方からの志願を容易にする入学者選抜
- 高校教育と学部教育の融合をめざす推薦制度
- 附属校・系属校からの入学者選抜方式と入学期前教育の見直し

(2) グローバルリーダー育成のための教育体系の再構築および経済支援

- 複眼的な視野を養う全学開放科目群
- 系統的に異分野を学ぶ全学共通副専攻制度
- クオーター制に即した科目適正配置と留学機会の増大
- 新規産業創出と起業の力を養うアントレプレナーシップ教育（次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT））
- 専門によらず身に付けるべきデータ科学教育（データ関連人材育成プログラム）
- 世界を視野にした自己実現を支援する学部および大学院のキャリア教育
- 人間力（観察・志・実行力）を涵養する課外活動プログラム
- 多様な学修を可能にする長期履修制度と単位従量制度
- 特別講座、eスクール、MOOCsを活用した多様な社会人教育
- 全員留学を実現する助成制度と海外大学との交換プログラム
- 受入留学生1万人へ向けた英語／日本語学位プログラムとサマーセッション
- 地方学生のための入学期前予約採用型給付奨学金「めざせ！都の西北奨学金」
- 1都3県からの受験生を対象とした給付奨学金「小野梓奨学金（新入生予約枠）」
- 児童養護施設出身者を対象とした「紺碧の空奨学金」

(3) 「教育と学習内容の公開」と「対話型、問題発見・解決型教育」への移行

- 学生の主体的な学びと教育のさらなる質の拡充を支援する新たなLMS (Learning Management System)
- 教育と学習内容の公開を促進するためのMOOCs活用
- 学修効果(学修過程・成果)を可視化する学修ポートフォリオ
- 授業の高度化、教育効果のさらなる向上を図る高度授業TA制度
- 各キャンパスのラーニングコモンズ充実とLA制度
- 授業アンケートの充実と教員表彰制度
- 優れた教授法を学ぶ授業参観FD

(4) 大学の教育・研究への積極的な学生参画の推進、学生生活の総合的サポート

- スチューデントジョブ拡大による学生参画の促進
- Student Competition による学生提案の実現
- 社会のニーズに即した就学・修学支援
- 社会における自分の役割を発見させるキャリア支援
- 仕事を通して将来の自分のキャリアを考えるインターンシップへの支援
- すべての学生の多様な要請に応えるスチューデントダイバーシティセンター
- 国籍や文化の枠を越えて異文化理解を深めるICC (Intercultural Communication Center)
- ジェンダー・セクシュアリティの多様性を受け入れるGSセンター (Gender and Sexuality Center)
- 障がい学生の修学に必要な支援を実施する障がい学生支援室

2. 研究力強化事業

(1) 研究体制の戦略的強化

- 選ばれた若手を支援する次代の中核研究者育成プログラム
- 国際研究大学にふさわしいURA体制
- 全学を俯瞰した研究者の可視化と新しい人事制度
- 外部のベンチャーキャピタルが投資できる研究連携コーディネーション
- 研究戦略を遂行する新研究支援システム
- 俯瞰的に研究力を評価するIR機能

(2) 研究の国際的競争力の拡充

- 学術研究および産学連携に対応する研究組織と制度の改革
- 世界的な研究ハブとしての機能を発揮する国際研究連携／交流プロジェクト(研究クラスタ)
- 研究力強化に繋げる新在外研究支援制度
- 研究発信を強化する学術論文補助制度およびハイインパクトジャーナル掲載支援プログラム

(3) 新たな研究分野の検討

- 健康・医療分野の研究力を可視化・向上する協定大学との連携プログラム
- グローバル課題に挑戦する分野連携型国際研究拠点

3. 社会貢献および文化・スポーツ推進事業

(1) 校友・社会連携の推進

- 全国各地の校友と一定期間生活を共にする校友連携プログラム
- 本学校友を対象とした健康づくりの長期研究「WASEDA's Health Study」
- 短期留学生、短期滞在研究者を含めた拡大校友会の形成
- 近隣住民・商店会との新たな連携
- 校友の枠を超えた新しい早稲田コミュニティの形成

(2) 文化資源・情報の発信

- 春のMuseum Week、秋の文化芸術週間に代表されるさまざまな文化発信
- 本学の個性や魅力を学内外に広く発信する早稲田大学歴史館
- Wikiシステムなど新たな公開形態を模索する「早稲田大学百五十年史」の編纂
- 約80万件のデータを公開する文化資源データベース
- 文化資源を仮想空間で可視化するバーチャルミュージアム
- 演劇の早稲田を発信する創立90周年の演劇博物館と復活した早稲田小劇場どらま館

(3) 早稲田スポーツの推進

- 地域交流型スポーツイベント「早稲田スポーツフェスタin東伏見」
- 学生・教職員のための東伏見・所沢キャンパストレーニング施設

4. 進化する大学の仕組みの創設

(1)組織基盤の強化

- 効率的な事業執行と経営の透明性確保のための**教育研究・法人運営評価制度**
- 各学術院(学部・研究科)の特性を明確にする**自己点検・評価、内部質保証制度**
- 国籍・性別・障がいの有無を超えて真のグローバル化を実現する**ダイバーシティ推進**
- 早稲田ブランドの価値を高める**戦略的広報**
- 自律的かつ意欲的なキャリア形成を実現する**職員人事諸制度**
- RPA (Robotic Process Automation) 導入による**職員業務構造改革**
- データに裏付けされた経営分析を可能にする**大学IR機能**

(2)教育・研究環境の整備

- 地域と大学が共存した**にぎわいのあるユニバーシティタウンの実現**
- 新たな教育スタイルに対応した中央図書館改修と**ラーニングコモンズ整備**
- 美術展示機能拡充のための**2号館(會津八一記念博物館)の改修**
- **所沢研究者宿舎・学生寮建設**
- **本庄高等学院第Ⅲ期(体育館)建設**
- 安全安心と快適性を確保する**大規模空間天井耐震改修**
- **ダイバーシティを推進する施設整備**

学術院の将来構想

Waseda Vision 150は、各学術院の将来構想とともに、一体的に進めています。



附属校・芸術学校

1. 早稲田大学高等学院



社会で活躍する卒業生を講師に招き、ライフ・デザイン講演会を開催



協定校のセントポール・カレッジ・マンリー校(オーストラリア)で現地高校生に向けて日本の文化についてプレゼンテーションを行い、交流



早稲田大学教授を招いての経済学の講義

(1) 主なトピックス

● ライフ・デザインを構想し進路を創造できる教育の充実

目標実現のため、中高大一貫教育のさらなる充実を図るとともに、社会・社会人と連携した教育を推進します。

各学術院の学問・研究内容に知的関心をもって進学できるよう、現行の学部設置科目の受講を拡充するとともに、日常的な研究内容の紹介や交流など、高・大接続教育をさらに充実させます。進学学部選択に留まらず、キャリア・プランニングからライフ・デザインを構想する機会を中・高6年間の節々で拡充・構築します。

社会・社会人との連携教育プログラムを確立・拡充し、社会の問題を社会人とともに発見して追究・議論し、その解決に知的・実践的に挑戦・貢献できる教育活動を展開していきます。

これらを通して、生徒一人一人がさまざまな問題に立ち向かう知的探究心・知的探究力を培うとともに、主体的に進路を創造できる教育を進めます。

● 地球規模の問題に挑戦・貢献しうる資質を伸ばす教育の充実

目標実現のため、国際交流と留学機会をさらに拡充し、海外学校の授業に対応する語学力を育成する取り組みを進めます。「1年間の留学期間を含む3年卒業制度」を活用した留学志望者をさらに増やすとともに、それ以外の留学・短期交換留学などを充実させます。

留学・交流先である協定校(オーストラリア・ドイツ・ロシア・中国など)を拡充し、新規の国・地域との交流・留学機会を確保します。留学を資金面も含めて支援するプログラムの構築を進めます。大学での留学機会の周知と準備につながるプログラムや指導体制を構築していきます。第二外国語(仏・露・中・独)圏との交流機会をさらに拡充していきます。海外大学や高校の授業に対応する語学授業を開発・試行します。

(2) その他の主な取り組み

● 主体的にライフ・デザインを構想し進路選択ができる施策の実践・拡充

ライフ・デザイン講演会、「nendo留学」(インターンシップ)などの社会連携

● 各学術院との連携強化と高大接続の具体策の実践・拡充

出前授業、学術院提供講義の受講、学術院ごとの日常的な広報活動

● 留学期間を含む3年卒業制度の円滑な運用と留学機会の拡充、留学支援の充実

協定校の新規開拓、長期・短期留学の紹介・奨励、留学支援策の拡充

● 生徒の特性を生かした活動の推進と日常教育活動全般の改善・充実

生徒の主体的な活動の支援、学習・研究意欲を引き出す教科学習の研究・実践

● SGH(スーパーグローバルハイスクール)構想の実践・完成と遺産の継承・発展

最終年度の活動の成功、SGH活動の理念と実践を引き継ぎ発展させるプログラムの構築

● SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の成果の普遍化と科学教育の充実

SSHの成果の普及、科学的思考力の増進を図るプログラムの開発・実践

● 中学部と高校の円滑な接続

高校生による中学部生のプレゼンテーション指導、協働するプロジェクト・課外活動の充実

2. 早稲田大学本庄高等学院



協定校である韓国のおいん外国語学校で、日韓合同グループに分かれてのプレゼンテーション



早苗寮(定員136名)に加えて梓寮(定員120名)が2018年3月に完成



新体育館

(1) 主なトピックス

- ・国際共生のためのパートナーシップ構築力育成プログラムの展開
- ・生徒参加型「マイクロプロジェクト」群の活動を通して、国内外の高校、大学や企業、地域社会と交流・連携し、社会課題に協働で取り組みます。
- ・中国・韓国・台湾・シンガポール・米国など各国の高校との交流により、学術・教育・文化などの国際協働プロジェクトに取り組みます。
- ・里山である大久保山の緑豊かな自然環境の中で、生徒たちに自然と共に生き、自然の知恵に学ぶという本学院独自の多様な教育プログラムを経験させます。日本のみならず、海外の各地域固有の課題解決のための複合的視点を養い、グローバル&ローカル人材に求められる資質を生徒に身に付けさせます。

・高大一貫教育の充実

- ・基礎学力の充実、知的好奇心の伸長を図るとともに探究心を養い、大学のグローバル化を牽引できる逞しい心身を育てます。さらに、将来さまざまな分野で要請される基礎学力を涵養します。
- ・「自ら学び 自ら問う」という基本方針を具体化した「卒業論文」をさらに充実させます。
- ・InboundおよびOutbound双方の留学制度を整備・充実させグローバル化を推進します。

(2) その他の主な取り組み

・女子寮(梓寮)の竣工ならびに新体育館の起工

生徒の自主的な活動を主として、地元企業を中心に地域と連携し、留学生との交流、企業によるキャリアデザイン講座などを企画することで魅力ある寮を実現します。体育授業や部活動の充実、全生徒に対するイベント開催、地域に根差した体育館の施設運営を検討します。

・学部進学における新たな制度の実施

思考力や判断力、意欲、主体性など多面的評価によって学部推薦を決定する選抜制度(G選抜制度)を導入します。

・高大接続

環境エネルギー研究科との大学教育や卒論指導等の連携を手始めに、一貫校であるメリットを生かし各学部との連携を進めます。

・SGHおよびさくらサイエンスプランの実施

競争的資金によるさらなる教育研究の充実を進めます。

・地域と連携した教育、キャリアデザイン講座の開設

OB等本学院と関係する企業、地元企業や本庄児玉地域、校友(特に埼玉県稻門会)等と連携し、一貫校ならではのキャリアデザイン講座を開講し、大学進学だけでなく社会で活躍するための将来像が描ける実体験型教育を実施します。

・海外留学支援基金の設立

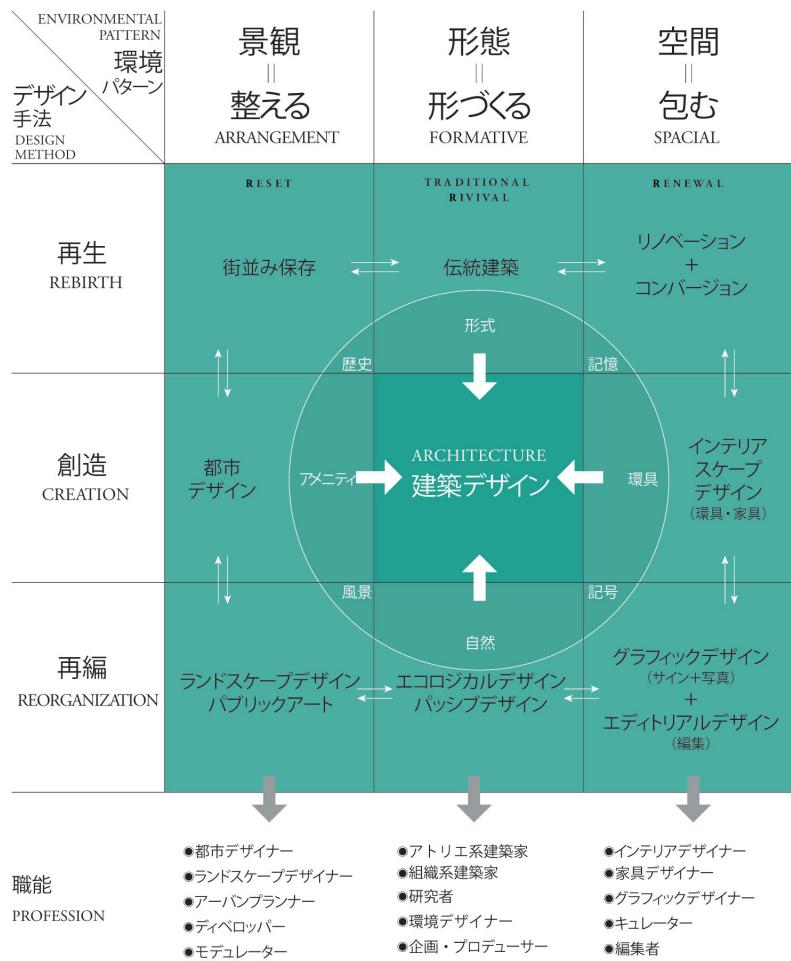
優秀な生徒の欧米の著名な高校への留学を支援するための基金の募集を企業に對して行います。

3. 早稲田大学芸術学校

(1) 主なトピックス

● 新カリキュラムスタート!

芸術学校は、2018年度新カリキュラムをスタートします。初年度となる2018年度は、この新たなカリキュラムの円滑な始動と安定的な運用を実現し、今後に向けた教育内容のさらなる充実、発展の起点となることをめざします。



2018年2月、「2017年度早稲田大学芸術学校卒業設計・学生作品展」を新宿パークタワー1Fにて開催

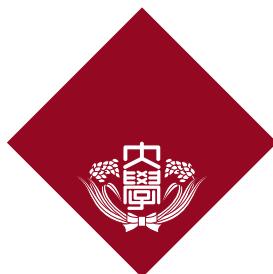
学生にとって学びの集大成となるこの作品展は、今後新カリキュラムのコンセプト“ASSEMBLE”に基づく、よりデザインオリエンティッドに特化した教育の成果発表の場となる

● 著名な実務家教員による魅力ある授業

新カリキュラムのコンセプト“ASSEMBLE”を具現化するため、建築デザインを取り巻く各領域で活躍する著名な実務家を教員に多数迎え、業界最前線の動向を踏まえた実践的で魅力ある授業を展開し、学生の多様な興味や関心に幅広く応えます。

(2) その他の主な取り組み

- 優秀な入学者確保のための入試制度、学生募集活動に関する見直しおよび改善
- 学内他箇所、建築デザイン関連企業・団体等との連携体制構築
- 利用者ニーズに基づく情報発信およびWeb環境を基盤とした広報活動の充実
- 高度建築家養成に向けた大学院進学希望者支援強化



学校法人 早稲田大学

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104

本学の情報は下記のWebサイトでもご覧いただけます。

本学Webサイト

<http://www.waseda.jp/top/>

事業計画書・報告書Webサイト

<https://www.waseda.jp/top/about/work/reports>